

新健康フロンティア戦略

(参考資料)

平成19年4月18日
新健康フロンティア戦略賢人会議

子どもの健康力

現 状

核家族化や
都市化の進展

出産・子育て期
の家族の孤立化

お産の場や小
児医療体制が不
充分

医療、保健、
福祉、教育の
連携が図られ
た支援体制が
不充分

家庭や地域を通じた生命や家族を大切にする意識の高まり
社会全体による子育てを応援する機運の醸成

家族の絆を深め、親子を支える食育の推進に向けた国民運動の展開
基本的な生活習慣づくりのための子どもの発達段階に応じた食育の推
進
子どもの食を守り、支える食育の推進

外遊びやスポーツに親しむ習慣や意欲の育成
学校教育活動全体を通じた健康と安全に配慮した体力向上の取組の
促進
家族や地域ぐるみで身近に運動・スポーツに親しむことができる環境の
整備

現在及び将来を見渡した産科医療のあり方の提示
産科・小児科医師等の確保・育成
地域の拠点病院の整備
小児医療提供体制の充実
地域における医療に係る相談・支援体制の構築、連携の促進
産科医療、小児医療の支援

妊娠期から子育て期に至る継続的な支援の推進
発達障害児等に対する包括的な支援体制の構築
発達障害児等に関する国民全体の理解の促進
発達障害児等を含む障害のある子どもへの特別支援教育の充実

家庭・地域におけ
る子育て支援体制
の構築

子どもの頃からの
食育の推進

外遊びやスポー
ツを通じた子ども
の体力の向上


産科医療・小児医
療の確保～安心・
安全なお産、子育
て支援の充実～

発達障害児等を支
援する体制の構築

子どもの健やかな育ちを支援する科学研究の推進

妊娠・出産の安全・安心の確保、子どもの健やかな
心身の育ち(子どもすくすく)と子育ての支援

こども医療未来図

| 課題 |  | 目標 |
|----------------|--|--|
| 救急医療等 | 第一次救急から第三次救急まで、施設の役割に応じた救急医療供給体制の整備 | 救急等の小児診療体制の整備、支援 |
| 小児固有の疾患に対する対策等 | 小児難病、小児がん、アレルギー、小児メタボリック症候群の克服に対する対策 胎児期・小児期から成人期に至るまでの継続的治療の実施 | 小児に固有の疾患、メタボリック症候群患者等の減少 継続的医療の実施 |
| 子どもの感染症 | 予防接種 早期診断・早期治療 | 罹患率の減少 重症化予防 |
| 子どものこころ・発達 | 発達障害等に対する早期発見・早期支援 思春期のこころ対策 | 子どものこころ・発達に関する問題の早期発見・支援 子どもの心の診療医の養成 |
| 高度先駆的医療の研究 | 新たな診断治療法の開発 胎児診断・胎児治療 遺伝子診断・遺伝子治療 再生医療 | 再生(細胞)治療 移植医療 遺伝子治療 の実用化、治療成績向上 |
| 人材育成 | 上記の課題を勘案した上での各領域での人材育成 人材育成へむけた教育・広報活動 | 小児科医・産科医、薬剤師、助産師・看護師等コメディカルの確保 |

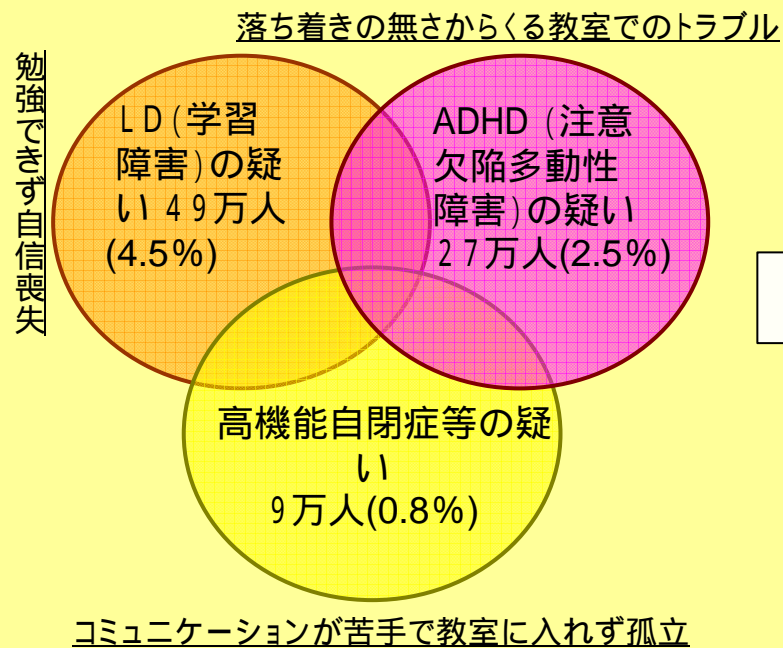
発達障害児の支援のための先端技術の活用

学習に困難を抱える子どもたちの実態(*1)

・小中学生の約6.3%(*2)

全国の小中学校に約68万人(発達障害の疑い)

主な発達障害



ネットや非行、不登校、いじめ等との関係も指摘されている

ユニークな知能の持ち主としての発達障害児

- ・ラテン語と中国語を独学で学ぶ不登校の子ども
- ・勉強はできるが集団に入れず孤立
- ・発想は豊かだが落ち着きがない
- ・IQ120にも関わらず字が書けない6年生の少年
- ・芸術文化の才能が優れている など

子どもの脳とこころの働きを解明する 研究の推進

発達障害のある子どもの多様化を
理解した学習支援方法の開発

(1) テクノロジーの活用による

子どもの能力開発

(例)ノイズキャンセリングヘッド
フォン(写真)、読み上げソフト、
ワープロの活用 等



(2)学習環境の整備によるバリアの解消

(例)教材開発、学習スタイルの多様化

(3)障害の理解と就労に結びつく道筋の整備

(例)学習困難の要因診断とテクノロジー適
用手法の開発 等

*1 以下の数字は文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査(2002年)」より

*2 上記調査の中で、学級担任を含む複数の教員が「知的発達に遅れはないものの、学習面や行動面で著しい困難を持っている」と判断した児童生徒の割合

女性の健康力

新戦略における主な具体的事項

思春期

妊娠・出産期

更年期

老年期

働き盛り期

課題

目標

やせすぎ

骨粗しょう症・
転倒骨折

歯周病・
むし歯

性感染症・人工
妊娠中絶

安心できる
お産

乳がん・
子宮がん

女性のニーズの
高い病気
(更年期障害、
リウマチ等)

やせすぎの人でダイエットしている者の割合の減少

転倒骨折を主な原因とする要介護者の割合の減少

12歳児の一人平均歯数の減少、80歳で20歯以上の歯を有する割合の増加

性感染症の感染率、人工妊娠中絶率の減少

妊産婦死亡率、妊娠・出産について満足している者の割合、産科医療の確保

乳がん検診、子宮がん検診の受診者数を概ね倍増

気軽に健康について相談できる人や場所のある女性の割合の増加

「自分のカラダを知ろう」 キャンペーン

- ・健康を守る食に関する知識の普及啓発
- ・過度なダイエットの健康リスクの意識啓発
- ・歯・口の健康づくり
- ・性感染症や人工妊娠中絶の健康リスクの普及啓発
…等

[個別の介護予防プログラムを受けられる仕組みづくり]
転倒骨折予防プログラムなどの研究

[身近な場所で気軽に情報入手や相談ができる体制の整備 / 女性のニーズに合った医療の推進]

[ピアカウンセリング()等による健康教育]

()共通の悩みを抱えるなど価値観を共有する同世代の仲間が相談相手として行うカウンセリング

[周産期医療提供体制の整備]

[女性のがんへの挑戦]乳がんや乳がん・子宮がん検診についての普及啓発 / 安心して利用しやすい検診体制



[職場内における働く女性の健康への適切な対応の推進]

[地域で気軽に相談できる体制づくり / 女性のニーズに合った医療の推進]

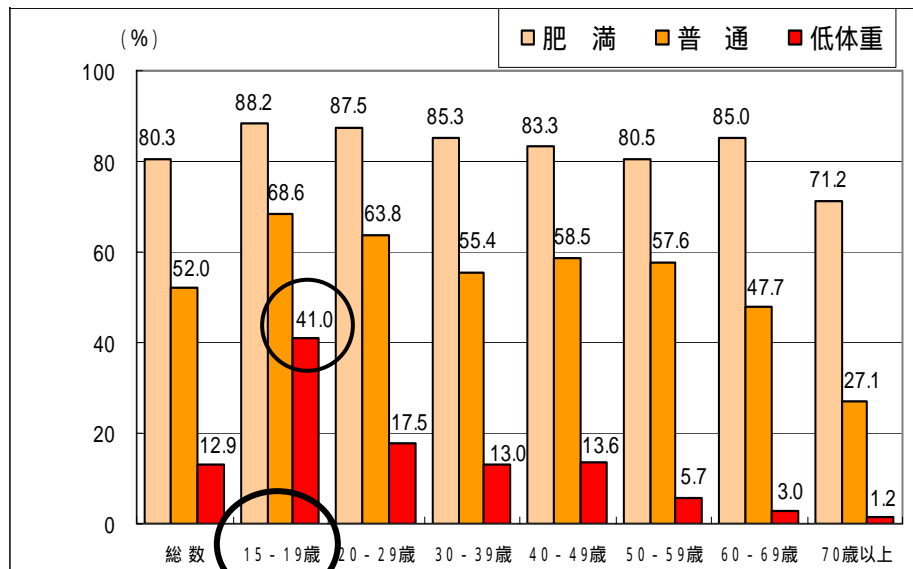
女性の健康を支える地域のボランティア活動の支援、女性のニーズに合った医療に関する研究の推進

「やせすぎ」なのにダイエット？健康への影響



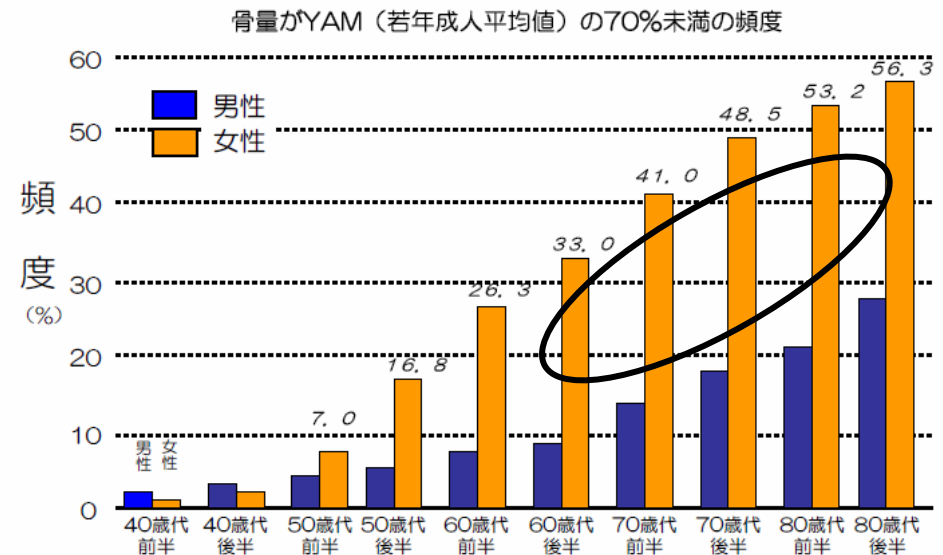
若い女性、特に10代の間で、
「やせすぎ」にもかかわらずダイエットをしている人が多い
骨密度の低下
いずれは骨粗しょう症や、転倒に起因して要介護状態に陥ることが多い

体重を減らそうとしている者の体重別割合（女性）



厚生労働省 平成14年国民栄養調査

年代別骨粗しょう症該当者の割合（推定）



山本逸雄：Osteoporosis Japan 7(1):10-11,1999より



- 骨粗しょう症に関する知識の普及
- 過度なダイエットの健康リスクの意識啓発
- 健康を守る食に関する知識の普及啓発 ...等

（思春期向け）

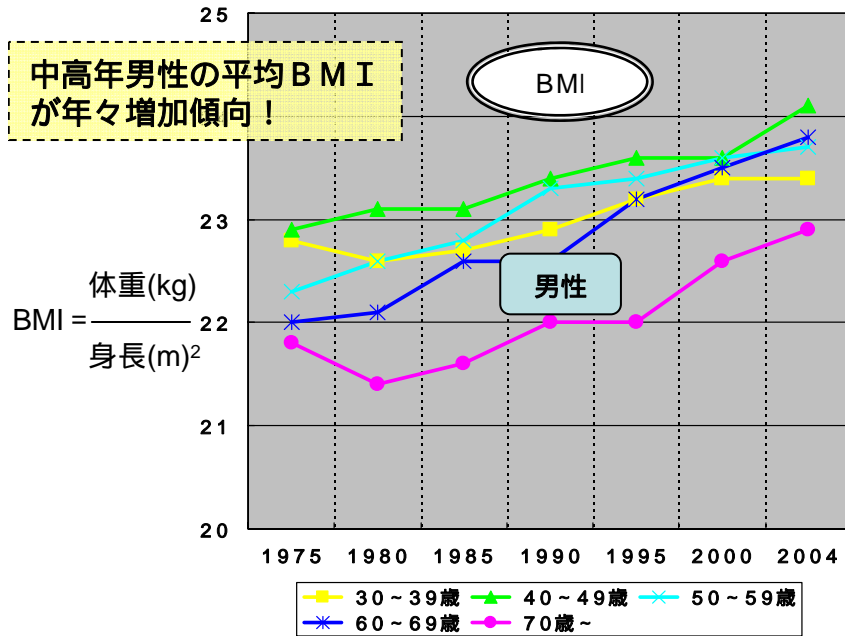
「自分のカラダを知ろう」
キャンペーン

課題

メタボ克服力(1)

目標

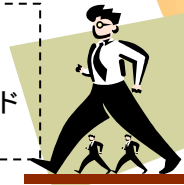
中高年男性の平均BMIが年々増加傾向!



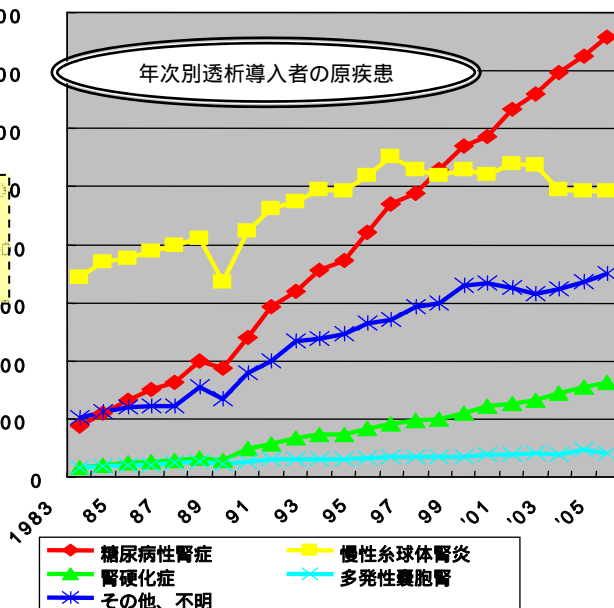
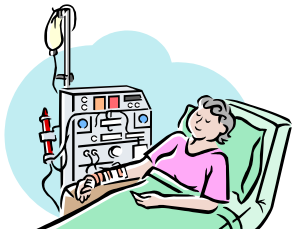
「メタボ退治」のための
国民運動の展開・健康関連産業
の育成
「テーラーメイド予防」に関する
研究開発と普及によるメタボの人の
減少!

糖尿病の
発生率を
減らします!

テーラーメイド予防
個人の遺伝素因等にも
配慮したテーラーメイド
的な予防



新規透析の原因で、
糖尿病によるものが
第一位に!



「テーラーメイド予防・治療」
のための司令塔づくりを進める!

「テーラーメイド治療」の
ための司令塔づくりを進め、
その研究開発・普及による
合併症発症の防止!

脳卒中
心疾患
による死亡を
減らします!

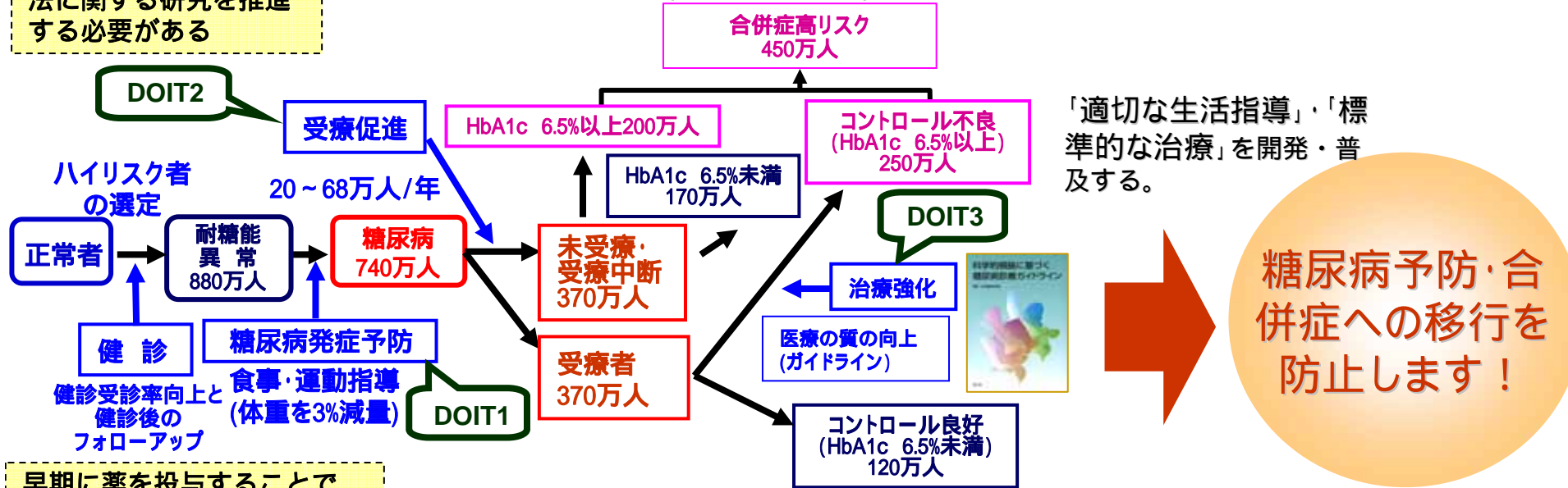
課題

メタボ克服力(2)

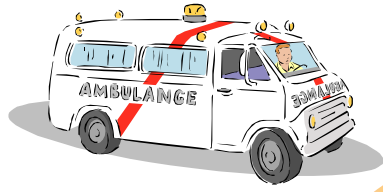
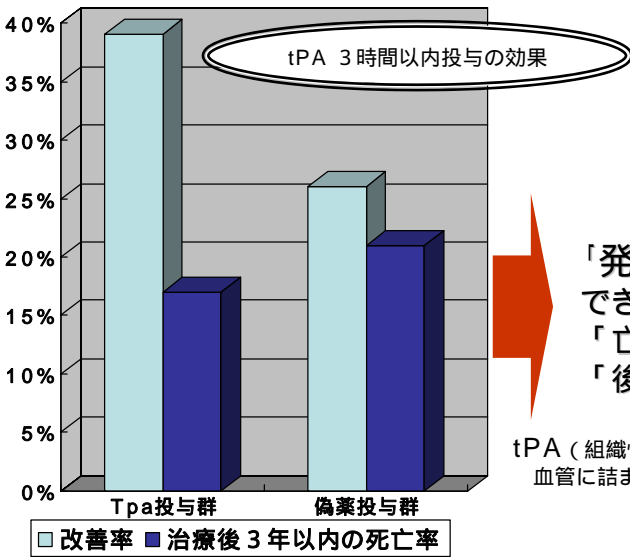
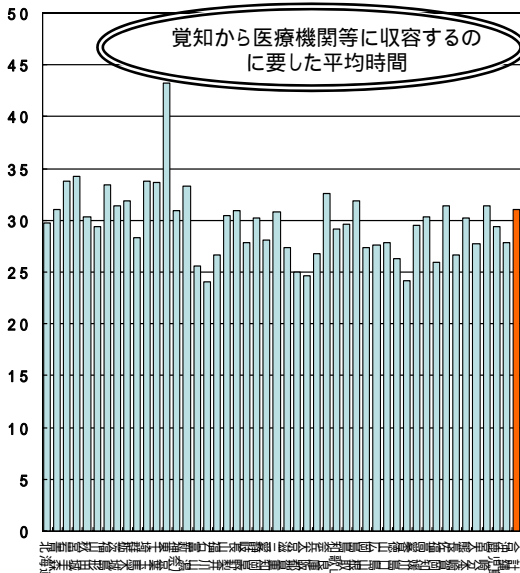
目標

糖尿病の予防法・治療法に関する研究を推進する必要がある

糖尿病のステージに応じた糖尿病の予防法・治療法の開発 J-DOIT (糖尿病戦略研究) (J-DOIT: Japan Diabetes Outcome Intervention Trial)



早期に薬を投与することで、脳卒中後の後遺症等が減少!



「発症 即、専門治療」ができる体制の整備を推進し、「亡くならない」! 「後遺症を残さない」!

tPA (組織性プラスミノゲン活性化因子) 血管に詰まった血栓を溶かす薬

脳卒中が原因で要介護状態となる割合を減らします!

図表: 新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変

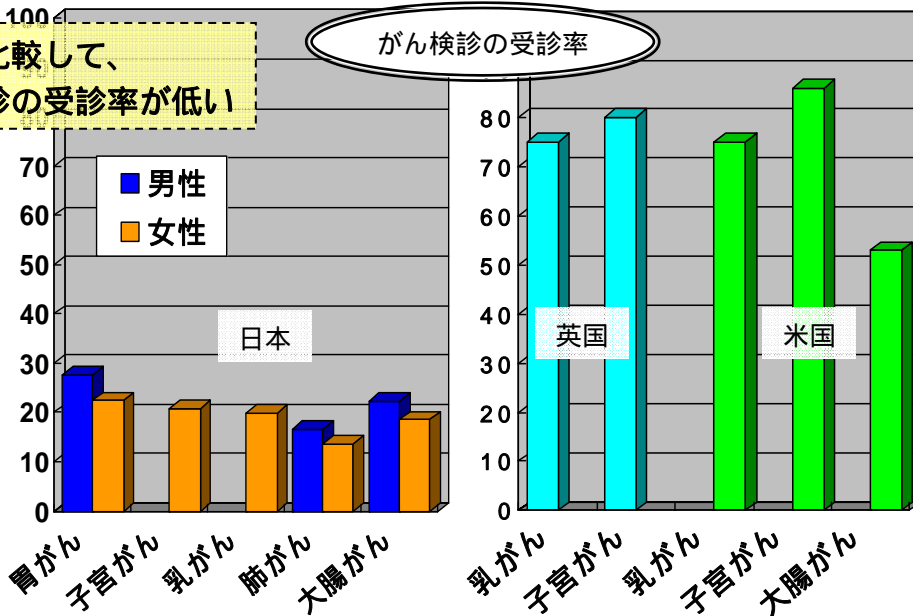
課題

がん克服力

目標

欧米と比較して、
がん検診の受診率が低い

日本は単年度、英国・米国はそれぞれ複数年度（2または3年度）のデータとなっているため、直接比較することは難しい。



検診受診率向上を目指し、
がんの早期発見を推進！

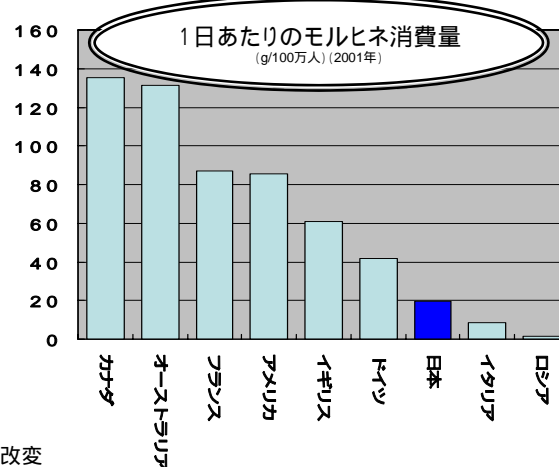
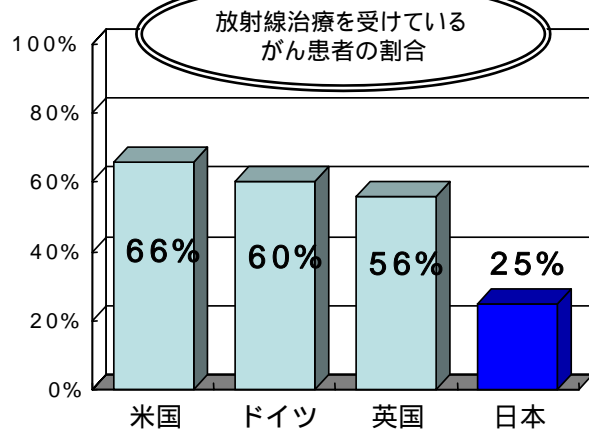


「安心・身近な」
がん検診を
すすめます！

欧米と比較して、
・放射線治療を受けている患者 や
・医療用麻薬の消費量が少ない

放射線治療、
除痛、緩和ケア
などの普及で、
手術中心の治療から
集学的治療への転換！

どこでも誰にも
「スタンダード
(標準的な)治療」
を目指します！



集学的治療
手術、放射線療法、化学療法
などの専門的な治療を組み合
わせて提供する治療



がん拠点病院
等の整備を推進
します。

がん拠点病院
地域がんの治療等の中核となる病院

図表：新健康フロンティア戦略賢人会議 第3分科会資料より一部改変